



生命誌の広場



テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

感激の子どもたち

投稿日：2014.08.31 名前：永松 智也

先日、中村先生から批評文のお返事が届きました。さっそく夏休み明けに子どもたち一人一人に渡しました。私もですが、子どもたちもまさか一人一人に返事をいただけるとは思っておらず、「えーっ！」と大変な驚きようでした。子どもたちは驚きとともに、大変感激した様子で、みんな自分への返事を食い入るように読み、大事に持って帰っていました。先生の子どもたちへの思いがわかりました。これも「つながり」なのかなと思いました。本当にありがとうございました。誠に申し訳ないのですが、まだ数名書き上げていない児童がおりましたので、また送ってもよろしいでしょうか？

お返事

投稿日：2014.09.01 名前：中村桂子館長

毎年たくさんのお手紙が来るので返事を書くのは大変なのは事実です。でも、一人一人が考えてくれたのですから、やはり返事をとっています。遅れた手紙、どうぞお送り下さい。

その他

カントリーの出で立ち（…死に絶えたと思っても…）

投稿日：2014.08.31 ニックネーム：hon no mushi

最近、ニラの花が白く輝いているのを見、地上部がすっかり枯れ果てていたのので全滅したと思っていたラッキョウが新しく萌え出ている、また夕食で付合わせの焼葱を食したところ大変美味だったり…そんな折、先に紹介致した政治絡みの話は的を得ている忍者の本に、たまたま「…タンボ平原で収穫される穀物で、ネオサイタマのおよそ八十五パーセントの炭水化物が賄われる。上空から俯瞰すれば、この地で栽培される二種類の作物が、青と緑のチェスボードめいた模様を形作っている事に気づく…バイオ米と、バイオネギである…」と出ていたので、面白いなあと思いました。

…安倍政権がリフレに迷走気味で、中国が周辺の実地域にも万里の長城を築くような勢いですが、昨日のNHK特番、国境を越えた気候変動の話は、ついつい観てしまいました。

この10年ぐらいはハイエイタスと呼ばれる気温停滞期に入っていて、その裏で深海に熱が溜め込められているらしいのですが、その熱の潜り込みは、赤道上の海面水温が下がりつつ中緯度帯の海面水温が上昇した時起こるそうで…私にはそれが（中緯度帯以北の海流から表面流が冷やされて深海層への潜り込みが起こるので）、敷布団カバーの縁（に溜まった皺のような熱）を、敷布団とマットレスの間に差し入れるような感じ…といった熱の伝播に思えました。またそれは、人間生活のなかで、膝・腰・肩・肘付近に緊張で余計な熱と筋肉を使うがゆえに、そこらが凝り固まって、逆にお腹が冷えていく様を連想させました…



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

リョコウバトのマーサが100年前に死んだそうです

投稿日：2014.08.29 ニックネーム：梨

人間なんて知らないよ(今江祥智、著)、というタイトルの絶滅種を主人公にした児童書を35年前の中学生時代に読んだのですが、最近になり古本屋で購入し再読したところ、リョコウバトの最後の一羽マーサが、100年前の1914年9月1日に動物園で死んだとありました。第一次世界大戦が始まった同じ年に絶滅した種が正確に記録されているのを再認識し、絶滅した理由も種の維持の限界が関係しているのかもネット検索していたりしていたところに、中村先生の20日に再放映されたNHK視点論点「生命誌を読み解く」を拝見して大変に啓発を受けました。環境を見守る事で共生して種の寿命を継続させるべく地球を知ること、生老病死を現在形で見つめる医療の転換期としていけるようにとの一言一言は、中学生の頃に当時の科学第二分野に対して求めていた一つの答えを提示していただけたように思いながらリピートして番組を見ています。ただの主婦ですが、テレビ番組と同じ内容の中村先生のご著作はありますか。生命誌をさらに深く知りたいのですが、入手可能なご著作を教えていただけたら幸いです。

お返事

投稿日：2014.09.10 名前：中村桂子館長

「生命誌を読み解く」を見て下さったとのことありがとうございます。ニュースを見ていると、お金と競争が大事と考えている方が多いように思いますが、一番大事なのは、皆（人間はもちろん他の生きものも）が生き生きと生きることですね。そのような社会にするのがこれからの仕事だと思っています。[生命誌研究館のグッズのコーナー](#)を見ていただくと著書があります。「生命誌とは何か」（講談社学術文庫）が小さくて適切かと思います。ホームページのグッズコーナーをのぞいてみて下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

まるで何かを繰り返すように…

投稿日：2014.08.19 ニックネーム：hon no mushi

つまらない投稿と思われても仕方ありませんが…ドキッとするようなことが『アドルフに告ぐ』に付随する年表に書かれていたので、この場に引用致します…（1939年のことです）

…

厚生省「結婚十訓」を発表（産めよ殖やせよ、など）
アカイエカ媒介の「眠り病」東京に流行
物価統制令実施、ヤミ時代に入る
白米禁止令実施（七分づき以上を禁止）

…

…重なるように、たまたま『聖おにいさん』を眺めていたとき、仏陀（お釈迦様）の父上のお名前が実は「白米のご飯」…と書いてあったので驚きました…

また、集团的自衛権のことで思ったのですが、二千年過ぎでの同時多発テロからイラク戦争にかけて、当時のブッシュ政権はネオコンと呼ばれる新保守派が指導部を牛耳っていて、それに寄り添った小泉さんの態度に今の安倍さんはそっくりだなあと感じました…まるで何かを繰り返すように…

あと…変な夢を見たのですが、大きな切り株の上に大の字に寝そべって青空をみているという夢で…たとえば右手を持ち上げると、沢山の弦楽器が一斉に弦を擦るように、セミやコオロギが一斉に鳴き出すように音が湧くのです。まるで、手を微妙に違った風に動かして、指の間に生まれる空気の渦が色々な音符となり、一瞬で消えてしまう五線譜に転写されるように…。賢治の話によく出てくるような感じで、面白かったですよ…

すみません、漫然とした投稿で…

昨日は頭の中が風に吹き流されたように…うっかりしていたのですが、まずお伝えしたかったのは食べ物のことについてでしたので、少し補足させて下さい。

…〈濃縮〉ではふとオレンジジュースが思い浮かんで、果汁の濾し汁は疲れている時にはいいけれど、嗜好品のように始終飲んでいると糖尿病になっちゃうなあ…と思ったのがきっかけですが、搾り出す前にミカンみたいに実ごと食べられれば、食物繊維も摂れて糖分の吸収が遅くなり、急激な血糖値の上昇が抑えられる…

(精製?食品と食べ過ぎは病のもと…)

ご飯だって…宮沢賢治は玄米を食べていたそうですが、平安時代の貴族達は既に、ヌカの部分を削り取って純白に精米し、山盛りにして食べていたそう…せめて糠漬けでも添え物であれば脚気にもならず済んだでしょうけど…

そういえば、自宅の庭に昨年からなっていた、丸っこいレモンの実はこの台風で全て落とされて、以前落ちたものにはカワニナのような小さ～な巻貝が皮に幾つか付いていましたけど…それらは洗われて私の部屋の窓辺にコレクションとして、干からびてミイラになるまで飾ってあります…(香りはなかなかすごいものがあります)

…ご飯も、お試して玄米に近い分づき米を、マダラメイガの幼虫と食い扶持を分け合い取り合いながら食べ進め…ようやく底に達したのですが、昨日、釜に水を張ってセットしていたものをチラッと覗くと、水が黄色っぽくなっていて、それでも構わず炊いて食してみたら…まるでヨーグルトでも和えたような、天然の発酵寿司のような微妙な味になっていました…健康には問題なさそうですが、おいしくもまずくもなく何だか小馬鹿にされたような味でした…

…なんとなく気が抜けてしまい…



中村桂子の「ちょっと一言」

なんとなくツッコんでみたくなる雰囲気がいいのでは…

投稿日：2014.08.11 ニックネーム：hon no mushi

…すいません、昨日の続きとなりますが…科学に携わる方の身辺雑記はとても惹かれるものがある、なかなか読ませてくれます…(失礼な物言いですけど)…あれ、この人科学者だったっけ、という感じに、たわいのない日常のことを書き綴っているなかでも、ズバッと科学的ツッコミの合いの手が入ると、さすがだなと感じます…

そういえば以前、〈濃縮・抽出〉のことに申しましたが、ふと思い出したことがあって、岐阜高山の辺りから白川郷のような山深い所では、自分達の身を守るための火薬の原料が手に入らないので、オシッコを濃縮して自家精製していたそうで、化学材料的には尿素などはアミノ酸やアデニンなどから代謝生成されるのはわかるのですが…

…本日、外は台風一過ですっきり晴天になるかと思ったのですが、とんでもない風が吹いていて…晴れているのに空気は熱く、すさんでいます…昨日、ふと本棚から手塚治虫作『アドルフに告ぐ』を手にとって読み始めてみると、第2次世界大戦前の荒れた空気の中のベルリンオリンピックから始まっていて、なんとなく共通するものが感じ取られました…



中村桂子の「ちょっと一言」

あくびが出るほどの幸せ…がほんとうの幸せ？

投稿日：2014.08.10 ニックネーム：hon no mushi

宮沢賢治の話の中にはあくびのあるシーンがちらほら見られますが、そういう光景が案外、幸せの代名詞…？

…中国の内情を解説した、徳間書店から出ている邱海濤さんの本に、2013年に実施された「黄信号になっても交差点に入らずいきなり止まれ」という1週間を取りやめになった法律のことが書かれていたのですが…そこから想像は膨らんで…

アキレスと亀、という話があります…アキレスがいくら進んでも亀に追いつけないという…そしてウサギと亀の話…今の日本経済は、金融政策や何やらのおかげで、業績を伸ばしている企業も多いかと思いますが、小泉政権の時と同じで経済成長しているのに、カチグミ以外は置いてきぼりをくったような空疎な実感がある…兎が儲けている企業だとすると、どんどん引き離されていく感じ…地道に歩んでいるカメから見ると、前の兎が一息入れて休んでいてくれる時がじっくり近づける充実感があって…でも今はその時期ではない…そしてアキレス…の目の前には亀がいて、その前を高速で今にも交差点に飛び込もうとする兎がいる…今、信号は青だ、この機会を逃すと永遠に引き離されかねない、とアキレスはもがき、焦る。そして自分の弱点をかばいながら走るあまり、別に負荷がかかり過ぎ、足がつってしまう…

…ここで合の手…『聖…おにいさん』という、手塚治虫の薫陶を受けた漫画を眺めていたら、キリスト関係の四人のアイドル大天使達が歌って踊っているシーンが出てきたのですが、（この先まだ読んでいない展開を考えると）ブリュゲル父子も描いているように、もう一人別格の天使が出てくるはず…6枚羽を持つ元最高位の

…その天使が、這いずりながらも前に進もうとするアキレスの後ろから追ってくるのです…そしてアキレスにはわかった！なぜ、かの大天使が6枚もの羽を持っているのか…その背に担う重責の大きさ、重さが…その膨大な〈借金〉を抱えても前に進めるのは彼だけ、そのためにあれだけの羽が必要なのだと…



中村桂子の「ちょっと一言」

生きた書齋

投稿日：2014.08.06 名前：寺内正子

陶芸家の浜田庄司さんは、ご近所の方達の世間話が飛び交う中で轆轤を引いていたと聞きました。お子様達と、丸い大きなテーブルに向かう先生のお姿を思い描いていたら、ふと、思い出しました。

「重ね描き」の原点だあ～。なんて、感じてしまいました。

と、同時に、昨日の、とっても残念なニュースには、科学ど素人の私も、「専門家」の危機的現状を思い知らされてしまいました。「生きている」ということの大切さを、当たり前にしなければ、と思いました。

お返事

投稿日：2014.08.06 名前：中村桂子館長

浜田庄司さんと並べていただいて光栄です。なるほど、浜田作品のもつ暖かさは、近所の方の世間話から生れているのかなと思いました。科学の世界を人間を出発点にするものにしなければならぬと思っています。



その他

アサリの海外進出

投稿日：2014.08.04 ニックネーム：のり

先日、休暇で初めてポルトガルに行きました。南部のスペイン国境に近い沿岸部で、一帯は砂州が複雑に入り組んだ湿地帯を背後に持つ、国立公園（Parque Natural da Ria Formosa）です。さて、ここで驚いたことの第一。鳴き砂です。石英の多い細かな白砂で、いい音がします。第2、日本種のアサリやハマグリが定着し、アサリは市場の人気商品になっていたこと。外来生物種が漁業に組み込まれています。浜辺にはこのほか、マテ貝、白っぽい浮遊性の貝、菱形の貝が大量に発生し、在来種に害を為してはいないようです。ハマグリは日本で絶滅に近い状態であることに思いが及びます。入り江の裏側にはトリガイ（小柄の赤貝）が泥地に、ムール貝、牡蠣が岩にへばりついていました。第3、コウノトリ、白サギ、千鳥類、そして何とフラミンゴ（海の向こうはアフリカ）が内側の塩田地域に。塩田では炎天下、手作業で塩をかき集めていました。重労働です。第4、農作業に向かう馬に乗った一家が国道を歩いていたこと。何とのどかな風景かと思いましたが、いや、機械を買う金がないからだと言われまして。そういわれると、皆体格が小さい。第5、浜辺にゴミが目立たない。昨年、隠岐の奇岩地帯が、大量の浮遊物に足下を囲まれて、浜が一メートルを超える厚さのゴミで埋められていたのを思い出しました。太平洋と大西洋は、一字違いでも、環境は大違いであるという感想を持ちました。

お返事

投稿日：2014.08.06 名前：中村桂子館長

ポルトガルですか。酷暑の中にいる身としては羨ましい限りですが、ヨーロッパも今年は暑いようですね。驚かれたことがたくさんあり、現場を見て感じる事の大切さを思いました。最近ちょっとアサリのお味噌汁（子どもの頃からおみおつけと言っているのですが、あまり通じなくなったので）食べていないなと思い出しました。おいしいですね。



展示・映像

20周年記念東京展示会について

投稿日：2014.08.04 名前：長谷川源治

東京展示会が1日の3時間開催では短いのではないかと思います。20年間の成果をもう少し時間を取っていただきたかったと思います。中村館長は関西に力を入れていることは解かりますが、関東へもう少し目を向けて欲しいと思います。関東へ常設展示室を設けていただければ最高です。宜しくね。

お返事

投稿日：2014.08.06 名前：中村桂子館長

20周年にいらしていただきありがとうございます。20年間の仕事を見ていただくには1日ではとても短かったと発表する側も感じております。関西に力を入れているというのではなく、たまたま大阪の高槻市というところにある研究館が私たちの仕事の場であり、是非皆さまにそこへいらしていただきたいということなのです。いつかいらして下さい。

▲ ページの先頭へ

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [リンクポリシー](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.